

1 試験研究成果

(1)平成22年度成果数

成果区分	普及 (普及に移しうる成 果)	指導 (技術指導に参考と なる成果)	行政 (行政施策等に反 映すべき成果)	研究 (技術開発に有効 な成果)	総計
1 農業構造・経営管理	1	5	1	1	8
2 水稲	1	2	4	2	9
3 畑作物	0	3	0	4	7
4 果樹	3	3	0	1	7
5 野菜	0	6	0	3	9
6 花き	1	1	0	2	4
7 作物バイオテクノロジー	0	0	0	0	0
8 作業技術	3	1	0	0	4
9 環境保全	1	0	0	1	2
10 土壌作物栄養	1	1	0	2	4
11 病虫害制御	2	5	0	4	11
12 食の安全	0	1	0	0	1
13 乳用牛	0	1	0	0	1
14 肉用牛	1	0	8	3	12
15 中小家畜(豚・鶏)	0	2	0	1	3
16 草地・飼料作物	2	4	0	2	8
17 家畜バイオテクノロジー	1	0	0	0	1
18 畜産環境	0	0	0	0	0
19 県北農業振興	1	2	0	0	3

普及：農家等へ普及することによって、経済効果や経営改善等が見込まれる成果

指導：普及指導員等の技術指導上の参考として適当と認められる成果

行政：行政からのニーズに対応した研究成果等で、行政施策の企画等に参考になると認められるもの

研究：新しい技術の試みで、今後の試験研究により技術に仕上げられる可能性のあるもの及び技術の基礎的知見、研究手法等に関するもの

(2)外部評価結果(集計)

ア 第1回(平成22年9月、評価対象：0成果)

イ 第2回(平成23年1月、評価対象：52成果)

評価項目	評価基準			
	A	B	C	D
総合評価	186 (67%)	90 (32%)	2 (1%)	1 (0%)
1 新規性	242 (87%)	35 (13%)	1 (0%)	1 (0%)
2 期待する活用効果	182 (66%)	85 (31%)	9 (3%)	0 (0%)
3 成果内容・表現の的確性	186 (67%)	89 (32%)	4 (1%)	3 (0%)

評価基準

1 新規性	A(高い)	B(やや高い)	C(やや低い)	D(低い)
2 期待する活用効果	A(高い)	B(やや高い)	C(やや低い)	D(低い)
3 成果内容・表現の的確性	A(適切)	B(一部見直し)	C(大幅見直し)	D(不適切)

(3)平成22年度成果名及び外部評価結果一覧

【普及(普及に移しうる成果)】 (A:提出可、B:一部修正、C:大幅修正、D:提出不可) [委員数(人)]

分野	成果番号	成果名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
農業構造・経営管理	H22-普-01	生産工程管理支援のための農業経営ナビ・帳票作成ツール	農業経営	5	1	0	0
水稲	H22-普-02	水稲の乾田直播栽培法	プロジェクト(水田)	4	1	0	0
果樹	H22-普-03	J M 7 台木利用りんご樹の幼木～若木期(7年生頃)における低樹高仕立て法	園芸(技術)	4	1	0	0
果樹	H22-普-04	品種「りんご 11月上旬に成熟する大玉で果汁の多い赤色品種「岩手5号」	園芸(技術)	5	0	0	0
花き	H22-普-05	9月下旬開花の切り花向け青色リンドウF1品種「いわてLB-2号」の育成	園芸(技術)	4	0	0	0
作業技術	H22-普-06	水稲湛水直播栽培における作溝同時直播装置の開発(追補)～粒状側条施肥機付き直播機での作溝同時直播～	プロジェクト(水田)	5	1	0	0
作業技術	H22-普-07	小麦の密条用小畦立て播種機の開発と効果	プロジェクト(水田)	4	2	0	0
作業技術	H22-普-08	極少量播種機構を備えたナタネの畦立て同時播種技術の開発	プロジェクト(水田)	5	1	0	0
環境保全	H22-普-09	簡易土壌分析システムに対応した施肥設計支援シート	生産環境	3	1	0	0
土壌作物栄養	H22-普-10	C/N比の低い有機質資材の畑状態での無機化特性とトマト雨よけ普通栽培の無化学肥料栽培における施肥法	プロジェクト(特裁)	2	2	0	0
病害虫制御	H22-普-11	イブコナゾール・銅水和剤による水稲種子の大量消毒法	病理昆虫	5	1	0	0
病害虫制御	H22-普-12	平成23年度病害虫防除指針に採用した主な殺虫剤、殺菌剤	病理昆虫	-	-	-	-
草地・飼料作物	H22-普-13	乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ極早生品種「38H20(バイオニア95日)」	家畜飼養・飼料	1	5	0	0
草地・飼料作物	H22-普-14	公共牧場等大規模草地におけるトラクタ搭載型GPS作業支援システムを活用した肥料散布作業精度の向上及び作業時間	外山畜産	4	2	0	0
家畜バイオ	H22-普-15	受胎率向上のためのホルスタイン種末経産受胎牛の飼料給与プログラムと血液検査指標値	家畜育種	4	3	0	0
東北農業振興	H22-普-16	東北地域における業務用向け露地ほうれんそうの栽培法	園芸(東北)	-	-	-	-
農業構造・経営管理	H22-普-17	りんどうの選花作業労力を軽減させる選花作業台セットの開発	農業経営	-	-	-	-

【指導(技術指導に参考となる成果)】 (A:提出可、B:一部修正、C:大幅修正、D:提出不可) [委員数(人)]

分野	成果番号	成果名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
農業構造・経営管理	H22-指-01	先進的野菜経営体の特徴と展開方向	農業経営	-	-	-	-
農業構造・経営管理	H22-指-02	りんどう収穫調製作業に影響を及ぼす要因と改善方向	農業経営	4	0	0	0
農業構造・経営管理	H22-指-03	農業技術体系データ作成ブックver2.0	農業経営	5	1	0	0
農業構造・経営管理	H22-指-04	営農計画作成支援シートver2.0	農業経営	4	2	0	0
農業構造・経営管理	H22-指-05	G A P ナビゲーションシステムの導入効果	農業経営	5	1	0	0
水稲	H22-指-06	平成22年岩手県産水稲の生育経過の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析・特に夏季高温の影響の解析	作物(技術)	4	2	0	0
水稲	H22-指-07	新しい岩手県リアルタイムメッシュ気象情報システムに対応した水稲主要品種の生育ステージ予測技術	作物(技術)	6	0	0	0
畑作物	H22-指-08	岩手県における平成22年産小麦の生育経過の概要と特徴	作物(技術)	3	3	0	0
畑作物	H22-指-09	平成22年岩手県産大豆の生育経過の概要と特徴・特に夏季高温の影響の解析	作物(技術)	6	0	0	0
畑作物	H22-指-10	発酵鶏ふんを利用した大豆栽培の連作による影響	作物(東北)	2	4	0	0
果樹	H22-指-11	りんご「黄香」の裂果を軽減する摘果時期	園芸(技術)	2	2	1	0
果樹	H22-指-12	カラムナータイプ「タスカン」のリンゴ授粉専用品種としての特性	園芸(技術)	4	1	0	0
果樹	H22-指-13	スピードスプレーヤ用ドリフト低減型ノズル及び立木用ドリフト低減型防除機の特徴	園芸(技術)	4	1	0	0
果樹	H22-指-14	大玉で食味良好な西洋なし「バラード」の特性	園芸(技術)	4	1	0	0

分野	成果番号	成果名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
野菜	H22-指-15	若苗利用トマト抑制作型における適品種と栽植様式および仕立て方等栽培管理方法	園芸（技術）	-	-	-	-
野菜	H22-指-16	雨よけ無加温栽培におけるパプリカの栽植様式、かん水、着果管理等栽培管理方法	園芸（技術）	2	2	0	0
野菜	H22-指-17	四季成り性イチゴ主要3品種の春植え栽培における培養液濃度の適正範囲	南部園芸	2	2	0	0
野菜	H22-指-18	アスパラガス伏せ込み促成栽培における休眠打破の重要性	園芸（技術）	1	3	0	0
野菜	H22-指-19	根のBrix糖度を上昇させるアスパラガス伏せ込み促成栽培の新たな茎葉黄化法の開発	園芸（技術）	2	2	0	0
花き	H22-指-20	リンドウ種子の発芽促進を目的としたジベレリン浸漬時間	園芸（技術）	3	1	0	0
作業技術	H22-指-21	中間管理作業がスムーズにできる晩播大豆の狭畦密植畦立て播種栽培技術	プロジェクト（水田）	1	4	0	1
土壌作物栄養	H22-指-22	堆肥を用いた「つぶゆたか」の稲WC S多収栽培の施肥法	生産環境	2	4	0	0
土壌作物栄養	H22-指-23	採花期間のりんどうにおける新根の分布位置に合わせた効果的な施肥	生産環境	4	0	0	0
病害虫制御	H22-指-24	マルチプライマーPCR法による3種シンクイムシの種識別	病理昆虫	4	1	0	0
病害虫制御	H22-指-25	ダイズ害虫ウコンノメイガに対する薬剤防除効果	病理昆虫	6	0	0	0
病害虫制御	H22-指-26	モモシンクイガに対する各種殺虫剤の防除効果	病理昆虫	3	2	0	0
病害虫制御	H22-指-27	キュウリ黒星病防除薬剤の評価	病理昆虫	2	2	0	0
病害虫制御	H22-指-28	トマト雨よけ普通栽培の主要害虫に紫外線除去フィルムと防虫網を組み合わせた物理的防除を実施した場合の病害虫の発	プロジェクト（特裁）	1	3	0	0
病害虫制御	H22-指-29	7～8月の高温がアカスジカスミカメの発生に及ぼす影響	病理昆虫	6	0	0	0
食の安全	H22-指-30	イムノクロマト法を用いた畑作物のカドミウム濃度簡易測定法	生産環境	4	1	0	0
肉用牛	H22-指-31	黒毛和種肥育前期にトウモロコシサイレージを多給する技術	家畜育種	3	4	0	0
中小家畜（豚・）	H22-指-32	交配計画作成プログラム「豚交配管理支援システム」	家畜育種	5	1	0	0
中小家畜（豚・）	H22-指-33	南部かしわのME・C P摂取量による発育モデル	家畜育種	5	1	0	0
草地・飼料作物	H22-指-34	稲発酵粗飼料に調製した非主食用水稻品種「つぶゆたか」の飼料特性と収穫適期	家畜飼養・飼料	2	5	0	0
草地・飼料作物	H22-指-35	飼料用トウモロコシの不耕起栽培における二毛作前作ライ麦の再生残草の影響とその抑制法	家畜飼養・飼料	5	2	0	0
草地・飼料作物	H22-指-36	飼料用トウモロコシ牽引式不耕起播種機の作業能率の改善方法（中割往復作業法）	家畜飼養・飼料	4	3	0	0
草地・飼料作物	H22-指-37	作溝式播種機を用いた春期牧草追播における入牧時草丈等が牧草定着に及ぼす影響	外山畜産	4	2	0	0
県北農業振興	H22-指-38	県北地域における夏秋ギク系小ギクの長期継続出荷法	園芸（県北）	-	-	-	-
県北農業振興	H22-指-39	県北地域における小ギク7月咲品種の8月盆出荷向け栽培法	園芸（県北）	-	-	-	-

【行政(行政施策等に反映すべき成果)】 (A:提出可、B:一部修正、C:大幅修正、D:提出不可) [委員数(人)]

分野	成果番号	成果名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
農業構造・経営管理	H22-行-01	岩手県産小ぎくの競争ポジショニングと対応方向	農業経営	-	-	-	-
水稲	H22-行-02	平成22年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査結果	作物(技術)	-	-	-	-
水稲	H22-行-03	平成23年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査新規供試系統	作物(技術)	-	-	-	-
水稲	H22-行-04	平成23年度水稲新配付系統(候補系統)	作物(技術)	-	-	-	-
水稲	H22-行-05	プレミアムブランド米の栽培基準(農薬使用4成分)で防除した場合のリスク	プロジェクト(特裁)	2	3	1	0
肉用牛	H22-行-06	黒毛和種産肉能力検定(直接法)成績	種山畜産	-	-	-	-
肉用牛	H22-行-07	黒毛和種産肉能力検定(現場後代検定法)成績	種山畜産	-	-	-	-
肉用牛	H22-行-08	黒毛和種子牛市場における県有種雄牛の評価	種山畜産	-	-	-	-
肉用牛	H22-行-09	黒毛和種種雄牛別枝肉成績	種山畜産	-	-	-	-
肉用牛	H22-行-10	黒毛和種種雄牛娘牛の繁殖成績および外貌	種山畜産	-	-	-	-
肉用牛	H22-行-11	日本短角種産肉能力検定(直接法)成績	家畜育種	-	-	-	-
肉用牛	H22-行-12	日本短角種産肉能力検定(現場後代検定法)成績	家畜育種	-	-	-	-
家畜ハイオテクノロジー	H22-行-13	県産黒毛和種牛肉中の脂肪酸組成への影響要因	家畜育種	-	-	-	-

【研究(研究開発に有効な成果)】

分野	成果番号	成果名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
環境保全	H22-研-01	特別栽培および有機栽培水田で確認された主な捕食性動物	プロジェクト(特裁)	-	-	-	-
水稲	H22-研-02	初期伸長性QTLを導入した水稲系統「岩1053」の育成	作物(技術)	-	-	-	-
水稲	H22-研-03	岩手県の水稲低アミロース品種・系統におけるアミロース含有率の変動性	作物(技術)	-	-	-	-
畑作物	H22-研-04	生育期の気象がばれいしょの収量・品質に及ぼす影響	作物(技術)	-	-	-	-
果樹	H22-研-05	ぶどう育成系統「岩手4号」、「岩手5号」の特性	園芸(技術)	-	-	-	-
野菜	H22-研-06	温度変換日数法による夏秋トマトの開花、収穫期予測モデル	南部園芸	-	-	-	-
野菜	H22-研-07	無加温での空気膜二重ハウスにおける温度・栽培特性	園芸(技術)	-	-	-	-
野菜	H22-研-08	「北の輝」の低温カット栽培における保温時の短日処理が連続出蕾性に及ぼす影響	南部園芸	-	-	-	-
花き	H22-研-09	未受精胚珠培養はリンドウの倍数性育種母本作出に利用可能	園芸(技術)	-	-	-	-
土壌作物栄養	H22-研-10	尿素添加により窒素濃度を高めたプロイラー鶏ふん肥料の製造	生産環境	-	-	-	-
病害虫制御	H22-研-11	ダイズ害虫ウコンノメイガは葉面積指数の大きな圃場に集中分布する	病理昆虫	-	-	-	-
病害虫制御	H22-研-12	リンドウ褐斑病に対する耐病性の遺伝様式	病理昆虫	-	-	-	-
病害虫制御	H22-研-13	リンドウ褐斑病の耐病性検定法	病理昆虫	-	-	-	-
花き	H22-研-14	リンドウこぶ症に対する畦畔遮断による抑制効果	病理昆虫	-	-	-	-
病害虫制御	H22-研-15	オリサストロピン粒剤の箱施用を活用したイネ紋枯病のインターバル防除の可能性	病理昆虫	-	-	-	-
乳用牛	H22-研-16	TMRにおける破碎処理トウモロコシサイレージ多給割合が産乳性に与える影響	家畜飼養・飼料	-	-	-	-
肉用牛	H22-研-17	肥育前期に大豆ホールクロップサイレージを給与した日本短角種の発育	家畜育種	-	-	-	-
肉用牛	H22-研-18	日本短角種の舎飼期自然交配技術	外山畜産	-	-	-	-

分野	成果番号	成 果 名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
中小家畜 (豚・)	H22-研-19	パークシャー種育成豚の能力調査成績	家畜育種	-	-	-	-
肉用牛	H22-研-20	日本短角種における枝肉形質関連遺伝子座の検出	家畜育種	-	-	-	-
草地・飼料 作物	H22-研-21	飼料用トウモロコシにおけるバイオガスプラント由来消化液の秋季施用が乾物収量に及ぼす影響	家畜飼養・飼料	-	-	-	-
草地・飼料 作物	H22-研-22	バイオガスプラント由来消化液秋季施用時の畑土壌中無機態窒素の経時的変化	家畜飼養・飼料	-	-	-	-
県北農業 振興	H22-研-23	温湯浸漬法がヒエの黒穂病菌の孢子発芽および種子発芽に与える影響	園芸(県北)	-	-	-	-
県北農業 振興	H22-研-24	アワおよびキビのヒサゴトピハムシに対する移植栽培の効果	園芸(県北)	-	-	-	-
県北農業 振興	H22-研-25	ヒエのイネヨトウに対するB T水和剤の効果	園芸(県北)	-	-	-	-

2 追跡評価

(1) 評価視点

岩手県農業研究センター試験研究課題評価実施要領別表5の規程により、「成果の活用状況」について、「現在も有効な成果であるか」「成果が経済活動等で活用されているか」の評価視点で追跡評価を実施。

(2) 追跡評価の調査方法

ア 評価1(評価の視点「現在も有効な成果であるか」)

(ア) 評価対象 平成9年度から平成19年度までに公表した「普及」、「指導」区分の試験研究成果

(イ) 評価方法 成果の主査研究室が関係研究室と調整の上、自己評価

(ウ) 評価区分

- A:(現在でも)有効
- B:目的達成(既に、成果の目的を達成し、現在では有効性がない)
- C:後年度の成果に反映(更新)
- D:無効(Bの概念にふくまないもの)

イ 評価2(評価の視点「成果が経済的活動等で活用されているか」)

(ア) 評価対象

- a 平成18、19年度に公表した「普及」区分の研究成果
- b 平成18、19年度に公表した「指導」区分の研究成果から評価対象として選定したもの

(イ) 評価方法

a 「普及区分」

(a) 本庁各室課が定める要綱・要領等に基づき検討されている成果は、自己評価を実施(別紙様式「平成22年度追跡評価調査書(普及区分)」)

- ① 農作物奨励品種等の決定及び改廃に関する要綱(奨励品種等)
※ 農産園芸課が所管する稲、麦類、豆類、果樹、野菜、花き等が対象
- ② 岩手県農作物病害虫・雑草防除指針作成要領(農薬の採用・使用上の留意点等)
- ③ いわて和牛改良増殖対策事業推進協議会設置要領(種雄牛の作出)
- ④ 日本短角種集団育種推進事業推進協議会設置要領(種雄牛の作出)

(b) 上記(a)以外の成果は、中央農業改良普及センターに調査を依頼(別紙様式「平成22年度追跡評価調査書(普及)」)

(c) 評価区分

- ① 農家への普及状況 A(目標の75%)、B(75%未満～50%)、C(50%未満～25%)、D(25%未満)
- ② 成果適用地帯または対象者における当該成果活用による効果
A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(なかった)
- ③ 成果活用等により地域(農家)に与えた具体的な効果(成果が活用されない要因)

a 「指導区分」

(a) 中央農業改良普及センターに次の調査を依頼する(別紙様式「平成22年度追跡調査調査書(指導区分利用状況)」)。

(b) 評価区分

- ① 技術指導の参考になったか:A(大いに参考になった)、B(参考になった)、C(あまり参考にならなかった)、D(参考にならなかった)
- ② 指導効果(技術改善、技術水準の向上、指導効率の向上等):A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(まったくなかった)

(3) 追跡評価結果(評価の視点「成果が経済的活動等で活用されているか」)

ア 普及区分

(ア) 農業研究センターが自己評価した成果

No.	<code>成果名	普及状況	効果	評価コメント (成果活用等による効果等)
2	(H18-普-02)平成19年度雑草防除指針に採用した水稻除草剤【担当:作物<水田作>】 【目標→現状】 -	-	A	本県の水田の雑草発生様相、除草効果及び省力性の面で使用効果を発揮している。
5	(H18-普-05)平成19年度雑草防除指針に採用した果樹除草剤【担当:園芸<果樹>】 【目標→現状】 -	-	B	果樹園では主に年3回除草剤を散布しているが、本剤は選択枝の1つとして利用されている。
7	(H18-普-07)平成19年度雑草防除指針に採用した花き除草剤【担当:園芸<花き>】 【目標→現状】 -	-	B	多くの普及センターで使用可能な剤として紹介している。しかし散布できる時機を逃し使用できない場合が多いので、使用方法の指導を徹底したい。
8	(H18-普-08)品種 乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ晩生品種「31N27(パイオニア125)」【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】 【目標→現状】 普及見込み面積50ha → 8ha	<u>D</u>	A	安定多収新品種として、早晩性が同等の廃止品種パイオニア122日(32K61)の代替として紹介したが普及見込み面積に達しなかった。 晩生品種は流通品種数も特に多く、当該品種は晩生の晩に属する品種であるため県南部の一部に普及が限られた。
9	(H18-普-09)品種 収量性、耐倒伏性に優れた高消化性ソルガム「東山交29号」【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】 【目標→現状】 普及見込み面積2ha → 2ha	A	A	育成元において種子増殖が芳しくなく、現在は市販ベース種子流通していないため広く普及していない。 当該品種の特長である多収性、耐倒伏性については現地において慣行品種と比べ優れることが認知されており、今後の普及が期待される。
11	(H18-普-11)平成19年度農作物病害虫防除指針に新たに採用した殺菌剤と殺虫剤【担当:病理昆虫<病理昆虫>】 【目標→現状】 -	-	B	各地域の病害虫防除体系策定の際に活用されている。
15	(H19-普-02)平成20年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針に採用した水稻除草剤【担当:作物<水田作>】 【目標→現状】 -	-	A	本県の水田の雑草発生様相、除草効果及び省力性の面で使用効果を発揮している。
16	(H19-普-03)品種 倒伏に強く褐斑粒の発生が少ない納豆用大豆「すずほのか」【担当:作物<野菜畑作>】 【目標→現状】 普及見込み面積40ha → 9ha	<u>D</u>	A	コスズに替わる納豆用品種として今後の面積拡大が期待される。平成21年産の普及面積は約9haである。
19	(H19-普-06)品種 りんご 9月下旬に成熟する着色良好な赤色品種「岩手7号」【担当:園芸<果樹>】 【目標→現状】 普及見込み面積8ha(目標年度:H22) → 6.2ha	A	A	平成21年春に展示圃3カ所に1406本、平成22年春に展示圃1カ所含む県内各地に4012本植栽され、順調に面積は拡大している。平成23年春に愛称を決定し、平成23年秋に初出荷を予定。
21	(H19-普-08)平成20年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針に新たに採用した除草剤【担当:園芸<果樹>】 【目標→現状】 -	-	A	果樹園では主に年3回除草剤を散布しているが、本剤は選択枝の1つとして利用されている。
25	(H19-普-12)品種 りんどう 新盆出荷可能な「極々早生6」【担当:園芸<花き>】 【目標→現状】 普及見込み面積2.5ha(種子供給開始5年後の作付け面積) → 平成22年現在の作付面積は3.1ha	A	B	露地栽培で7月上旬からの出荷が可能であり、新盆出荷量の増加に貢献できた。
26	(H19-普-13)品種 乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ早生品種「LG3520(スノーデント110)」【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】 【目標→現状】 普及見込み面積90ha → 259ha	A	A	安定多収が期待できる品種として浸透し、普及面積が徐々に拡大している。
27	(H19-普-14)品種 乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ中生品種「34B39(パイオニア115)」【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】 【目標→現状】 普及見込み面積90ha → 81ha	A	A	安定多収が期待できる品種として浸透し、普及面積が徐々に拡大している。
28	(H19-普-15)平成20年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針に新たに採用した殺菌剤と殺虫剤【担当:病理昆虫<病理昆虫>】 【目標→現状】 -	-	B	各地域の病害虫防除体系策定の際に活用されている。しかし、特別栽培米地帯では、効果が低いと評価した防除指針未掲載薬剤が広域的に使用される例もある。

*1:普及状況:農家への普及状況 A(目標の75%)、B(75%未満~50%)、C(50%未満~25%)、D(25%未満)、目標数値が定められていない場合は記載しない

*2:効果:成果適用地帯または対象者における当該成果活用による効果 A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(なかった)

(イ) 中央農業改良普及センターが評価した成果

No.	<code>成果名	普及状況	効果	評価コメント (成果活用等による効果等)
1	(H18-普-01)水稲品種「どんびしゃり」の栄養診断基準【担当:作物<水田作>】 【目標→現状】栽培目標面積3,000ha → 1,150ha (H22)	C	B	導入当初「どんびしゃり」は、耐病性良食味品種としていもち病多発地帯への普及が期待された。当該成果は「どんびしゃり」導入2年目の成果であり、品種導入時の普及目標に沿った内容となっている。現在は低米価下の影響で「どんびしゃり」が多収栽培されており、この成果をもとに現場で多収栽培が組み立てられ活用されており、一定の成果が得られている。
3	(H18-普-03)りんご「黄香」の収穫適期判断基準と判断用カラーチャートの作成【担当:園芸<果樹>】 【目標→現状】-	-	A	「黄香」は収穫時(過熟)に縦割れが発生するため、適期収穫が重要となる。本成果で作成されたカラーチャートは指導上の収穫の目安や生産者の収穫時に利用されている。
4	(H18-普-04)リンゴ斑点落葉病の発生が多い地域における防除対策【担当:病理昆虫<病理昆虫>】 【目標→現状】-	-	A	リンゴ斑点落葉病はリンゴの主要病害であり、その防除対策は重要である。本成果により6月下旬に効果の大きい薬剤を防除暦に採用する地域は多い。
6	(H18-普-06)ほうれんそうの「とろけ」発生の要因と対策【担当:生産環境<保鮮流通技術>】 【目標→現状】-	-	B	ほうれんそう主産地のJAで概ね活用されているが、「とろけ」に由来するクレームの低減には至っていない。
10	(H18-普-10)インターネットを活用した農業技術体系データベース・システム【担当:農業経営<農業経営>】 【目標→現状】-	-	A	Webサイトを通した利用なので、農家に紹介しやすい。複数作目の場合の作付規模に応じた集計の機能が利用者に喜ばれている。
12	(H18-普-12)農作業計画策定のためのアメダス地点別・半旬別作業可能日数率算出支援シート【担当:農業経営<生産工学>】 【目標→現状】-	-	B	作業計画を策定する上での作業可能日数を容易に算定できることは便利であるが、県内地点別に算定するニーズは少ないかもしれない。
13	(H18-普-13)農産物入りミルクジャムの新製造法【担当:生産環境<保鮮流通技術>】 【目標→現状】-	-	C	県内での農業者によるミルクジャムの製造がほとんどないことから活用はあまりないが、起業支援の中で今後の活用は見込まれる。
14	(H19-普-01)水稲湛水直播栽培の出穂期予測と収穫適期中の拡大【担当:プロジェクト(水田農業)<水田作>】 【目標→現状】-	-	B	直播における出穂期予測を可能にした基礎技術としてだけでなく、直播導入メリットをモデルとして示した点が評価される。
17	(H19-普-04)水田大豆の小畦立て播種栽培の導入効果【担当:プロジェクト(水田農業)<野菜畑作>】 【目標→現状】-	-	B	技術導入は順調に進んでいる。しかし収量向上に直結しない場合もある。
18	(H19-普-05)小麦赤かび病の防除適期【担当:病理昆虫<病理昆虫>】 【目標→現状】-	-	B	防除時期が明確に示されたことから、適期防除が可能となった。 ナンブコムギで2回防除が実施されていた地域ではカビ毒の発生が懸念されるため2回防除が定着しており、カビ毒への影響をもう少し詰めるべきと考える。
20	(H19-普-07)りんご「シナノゴールド」の収穫適期判断【担当:園芸<果樹>】 【目標→現状】-	-	A	「きおう」のカラーチャートはすでに多くの農家に配付されており、利用されている。また、油上がり判断基準としたことは画期的であり、理解しやすい。
22	(H19-普-09)イチゴ春秋二期どり作型で採苗効率を向上する2回採苗法【担当:園芸<野菜畑作>】 【目標→現状】-	-	B	冬期の日照量が少なく、暖房を用いた促成栽培の導入が困難な産地の一部ではあるが主業型生産者中心に活用されている。
23	(H19-普-10)畑わさびにおけるナトビハムシの生態と薬剤防除【担当:病理昆虫<病理昆虫>】 【目標→現状】-	-	B	畑わさび栽培地域において概ね活用されているが、効果を上げるためには、生産者がミドリサルゾウムシとの判別と薬剤選択を的確にできるようになる必要がある。
24	(H19-普-11)グラウンドカバープランツとしてのイブキジャコウソウによる農地法面の植生管理【担当:農業経営<生産工学>】 【目標→現状】-	-	A	導入面積は不明であるが、今も問い合わせは多く、法面管理を考えるきっかけになった。その後、マニュアルも整理された点もあわせて高く評価される。

*1:普及状況:農家への普及状況 A(目標の75%)、B(75%未満~50%)、C(50%未満~25%)、D(25%未満)、目標数値が定められていない場合は記載しない

*2:効果:成果適用地域または対象者における当該成果活用による効果 A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(なかった)

イ 指導区分

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
1	(H18-指-01)水稲品種「いわてっこ」「どんびしゃり」の生育予測パラメータ【担当:作物<水田作>】	B	B	基本技術であり、適切なタイミングで成果としてまとめた点は評価できるが、場合により予測誤差が大きくなるなど、利用場面を考えた際の課題も多く、今後の成果取りまとめに期待したい。	一般に追肥や防除時期の推定で活用。
2	(H18-指-02)平成18年度における水稲生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析【担当:作物<水田作>】	A	A	平成18年度の作柄について、反省・改善し、次年度への計画をたてていくうえで大いに参考になった。願わくば、過去のデータから将来におこるであろう問題を推測するような解析を行って欲しい。	次年度の栽培計画立案に活用。
3	(H18-指-03)堆肥を利用した水稲50%減化学肥料代替栽培におけるいもち病の発生リスク【担当:プロジェクト(特栽有機)<環	B	B	特別栽培等に取り組んでいる産地での防除指導の参考となる。	防除指導の裏付けとして活用
4	(H18-指-04)玄米タンパク質含有率を考慮した「ひとめぼれ」の栄養診断指標【担当:生産環境<土壌作物栄養>】	B	B	玄米タンパクを推測する栄養診断は画期的であるが、以後これに関する成果はなく、従来の栄養診断の延長の指導にしか使えない点は残念である。	ひとめぼれの作付け地帯で追肥の判断に活用
5	(H18-指-05)県北地域における有機育苗培土利用による水稲無化学肥料栽培【担当:作物(県北)<営農技術>】	B	B	化学肥料を使用しない体系として一つのメニューとして活用可能な技術として参考となる。	一部の生産者であるが取組実施されている
6	(H18-指-06)アカスジカスミカメの発生を抑制する水田畦畔雑草管理【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	カメムシ防除における畦畔管理の重要性を認識させられる成果であり、現場指導で大いに役立った。しかし、カメムシについては解明されていないことも多く、相変わらず落等要因の1位である事には変わりなく、今後の成果に期待したい。	耕種的防除として広く普及。
7	(H18-指-07)アカスジカスミカメの水田内侵入様式【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	現在はカメムシ防除の基本技術となっているが、この成果以前は圃場規模に係わらず額縁散布でも良いと思っていた農業者は多くいた。現状でも額縁散布で対応している方も多いので、出来れば、額縁散布の効果は畦畔から何mまでなのかについて取りまとめていただければ幸いである。	基本技術として定着
8	(H18-指-08)ミノストロピン剤250グラムの簡易機具を用いた畦畔からの投げ込み散布による穂いもち防除効果【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	B	次年度の大区画圃場での成果とあわせて評価、省力技術として参考になった。 穂いもち防除は省略される傾向にあり、穂いもちによる減収、品質の低下が心配される。米価が安いのでコスト低減が要因の一つであり、課題解決のためには省力・低コスト技術が必要であり、今後の成果に期待したい。	一部地域で普及
9	(H18-指-09)水稲品種「いわてっこ」のいもち病圃場抵抗性を利用した省農薬防除法【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	一般に「いわてっこ」の省農薬栽培は定着しており、県全体で年間6000~9000万円のコスト低減効果があると考える。当該成果は高く評価できる。	基本技術として定着
10	(H18-指-10)水稲品種「どんびしゃり」の穂いもち圃場抵抗性「強」を利用した穂いもち防除の省略【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	一般に「いわてっこ」の省農薬栽培は定着しており、県全体で年間1000~3000万円のコスト低減効果があると考える。当該成果は高く評価できる。	基本技術として定着
11	(H18-指-11)各種粉体化技術による玄米粉の加工適性の評価【担当:生産環境<保鮮流通技術>】	B	C	農業普及員が販売農家に対して指導する場面があまりなかった。菓子製造や加工業者での技術改善効果はあったものと推察される。	関係機関での知見の共有
12	(H18-指-12)ナンプコムギの冬期播種栽培における窒素施肥法【担当:作物<野菜畑作>】	B	B	冬期播種栽培に取り組む際、参考となった。	冬期播種栽培導入時に参考になった事例がある。
13	(H18-指-13)ナンプコムギの冬期播種栽培における病害・雑草防除【担当:作物<野菜畑作>】	B	B	冬期播種栽培に取り組む際、参考となった。	冬期播種栽培導入時に参考になった事例がある。
14	(H18-指-14)大豆「黒千石」の特性及び栽培上の留意点【担当:作物<野菜畑作>】	A	A	契約栽培により黒千石を作付けする生産者への指導に役立った。	黒千石栽培において参考になった事例がある。
15	(H18-指-15)発酵鶏ふんの下層施用により大豆のタネバエ被害を低減できる【担当:作物(県北)<営農技術>】	B	B	従来タネバエ被害が出るとのことで大豆への鶏ふん利用は控えるよう指導していたものが利用推進を図られるようになった。	参考となった事例がある
16	(H18-指-16)雑穀栽培における畑用簡易手押し式除草機の特性【担当:作物(県北)<営農技	B	C	手作業に依存している零細農家での雑穀栽培において参考となった。(面積的にはあまり普及しなかった。)	雑穀栽培において参考になった事例がある。

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
17	(H18-指-17)アワ栽培における早期培土を基本とした機械除草体系【担当:作物(県北)〈営農〉】	A	A	登録農薬のないアワ栽培において、機械化体系による作付け拡大に役立った。	雑穀栽培において参考になった事例がある。
18	(H18-指-18)キビの適正は種量及び作期【担当:作物(県北)〈やませ利用〉】	B	B	キビ栽培において機械化体系における播種量の参考となり、作付け拡大に役立った。	雑穀栽培において参考になった事例がある。
19	(H18-指-19)水田栽培用ヒエ「達磨」の無化学肥料一貫栽培体系の実用性【担当:作物(県北)〈やませ利用〉】	B	B	雑穀の有機栽培に取り組む生産者にとって参考となった。	雑穀栽培において参考になった事例がある。
20	(H18-指-20)JM7台利用樹の衰弱症状における年輪褐変年度の特定と樹勢回復対策法【担当:園芸〈果樹〉】	B	B	JM7台利用樹の衰弱症状については現地での発生が少なく、技術として利用する機会は少ない。しかし、衰弱症状を理解する上で、技術的な参考となった。	北上市内の発生園で盛土が行われている。
21	(H18-指-21)果樹の発芽及び開花予測法(追補)ー開花予測に係る定数計算プログラム作成による開花予測制度の向上ー【担当:園芸〈果樹〉】	A	A	果樹の発芽及び開花時期を予測することは、計画的な栽培管理を実施するうえで重要である。本成果によって得られた定数はすでに岩手県リアルタイムメッシュ気象情報システムに導入されており、各普及センターで利用されている。	岩手県リアルタイムメッシュ気象情報システムの発芽開花予測
22	(H18-指-22)5~6月の薬剤選択によるリンゴ病害の総合防除体系【担当:病理昆虫〈病理昆虫〉】	A	A	リンゴの主要病害の重点防除期と防除薬剤が示されており、各地域の防除暦を作成する際の技術的参考となった。	各地域防除暦
23	(H18-指-23)JM1台苗木におけるリンゴ高接病の発生特徴と診断法【担当:病理昆虫〈病理昆虫〉】	B	B	JM系台木を選択する際の一助となっている。なお、JM7台木がリンゴ高接病に対して抵抗性と判明したことは普及拡大に貢献している。	指導会等での情報提供
24	(H18-指-24)ぶどう「シャインマスカット」の特性【担当:園芸〈果樹〉】	B	B	全国的に話題となっている「シャインマスカット」は岩手県における特性について現地か求められていた。ぶどうの品種選択を検討する際の参考となった。	紫波町、花巻市で植栽本数は増加傾向である。
25	(H18-指-25)ブルーベリーの特徴評価と優良品種の選定【担当:園芸〈果樹〉】	A	A	ブルーベリーは生食、観光摘み取り、加工など多くの販売チャンネルを有する作目であり、販売用途に合わせて品種を選択することが重要である。本成果は品種選択における技術的な参考資料となっている。	指導会での情報提供
26	(H18-指-26)キュウリホモプシス根腐病の防除効果を安定させる作畦方法及び定植位置【担当:病理昆虫〈病理昆虫〉】	B	B	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれており広く活用されている。	指導会等での情報提供
27	(H18-指-27)きゅうりの新病害黒点根腐病(仮称)の発生と診断のポイント【担当:病理昆虫〈病理昆虫〉】	A	A	新病害の診断対応が可能となったほか、野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれており広く活用されている。	現地での診断および指導会等での情報提供
28	(H18-指-28)夏秋トマトの不織布ポット栽培の特性【担当:園芸〈野菜畑作〉】	B	B	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれており広く活用されている。	指導会等での情報提供
29	(H18-指-29)夏秋トマト雨よけ栽培に適する葉かび病耐病性品種「桃太郎なつみ」の特性【担当:南部園芸〈南部園芸〉】	B	B	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれており広く活用されている。	指導会等での情報提供
30	(H18-指-30)アザミウマ類の土着天敵の発生消長に影響を与える数種の殺虫剤【担当:病理昆虫〈病理昆虫〉】	C	C	天敵等利用技術を活用する際の参考にはなるが、薬剤の種類が少ないほか、訪花昆虫への影響が不明など、実際の利用場面で重要となるデータの蓄積が必要。	指導資料の作成
31	(H18-指-31)いちご二期どり作型の経営モデルの策定【担当:農業経営〈農業経営〉】	B	B	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれ活用されている。	指導会等での情報提供
32	(H18-指-32)イチゴ低温カット作型に適する高設栽培の栽培槽と施肥法【担当:南部園芸〈南部園芸〉】	C	C	低温カット作型を導入している生産者が既存の高設栽培様式を変更するほどの費用対効果が見込まれず、技術の提案先は新規生産者に限られている。	知見の共有
33	(H18-指-33)発酵豚ふんを用いてながいもの無化学肥料栽培ができる【担当:作物(県北)〈営農技術〉】	B	B	地域有機物資源の利用促進にもつながる技術として、当該地域の生産者に広く周知されている。	指導会等での情報提供

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
34	(H18-指-34)葉菜類の栽培から出荷における衛生管理上の重要管理点【担当:生産環境<保鮮流通技術>】	B	<u>C</u>	調製作業時の衛生管理の重要さの啓発のためには参考になったが、活用場面としては、大腸菌群数の減少よりも、出荷物の品質確保の方が求められている。	調整作業の適正化指導の参考資料として活用
35	(H18-指-35)小型反射式光度計を用いた雨よけほうれんそうの体内成分の簡易測定法【担当:生産環境<保鮮流通技術>】	B	<u>C</u>	ほうれんそう品質向上に留意した栽培管理について説明する際の、基礎資料として役立った。	品質向上栽培管理指導の参考資料として活用
36	(H18-指-36)アスパラガス年内どり作型における1年養成根株の堀取り時期【担当:園芸<野菜畑作>】	A	A	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれており広く活用されている。	指導会等での情報提供
37	(H18-指-37)生物農薬を利用した水わさびのアブラムシ類防除【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	B	B	野菜栽培技術指針に当該研究成果の内容が盛り込まれており、現地指導の参考になっている。	指導会等での情報提供
38	(H18-指-38)岩手県オリジナルりんどうF1品種採種用親系統の組織培養による維持・増殖システム【担当:園芸<応用生物工学>】	-	-	成果の対象や活用できる背景が限定されていること、マニュアルは農研センターで管理されていること等から当方では評価できない。	-
39	(H18-指-39)県中部におけるリンドウホソハマキ越冬世代羽化時期の変動【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	B	B	病害虫防除指導において広く活用されている。さらに解明していただきたい点もあるので、調査研究を継続してほしい。	防除指導の参考資料として活用
40	(H18-指-40)りんどうハダニ類の薬剤感受性の実態【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	B	病害虫防除指導において活用し、防除ごよみ作成等の参考とした。	防除指導の参考資料として活用
41	(H18-指-41)小ぎく「アイムムパープルレッド」および「アイムムアーリーホワイト」は県北地域において旧盆需要期出荷が可能である【担当:園芸(県北)<産地育成>】	B	B	旧盆出荷をねらった作型では晩霜対策も兼ねてトンネル被覆栽培は通常の技術として定着しており、その作型に「アイムムパープルレッド」も導入されている。	栽培技術指導資料として活用
42	(H18-指-42)TMR給餌タイミングによるヒートストレス緩和効果【担当:家畜飼養・飼料<家畜飼養>】	A	B	調整時間を夕方にする必要があり戸別農家では活用されている事例あるがTMRセンターでは利用が出来ない状況	農家指導時の情報提供
43	(H18-指-43)和牛繁殖経営における水田放牧の導入効果【担当:農業経営<農業経営>】	B	B	水田放牧志向農家の掘り起こしや取り組む際の経営試算等に活用することができるが、補助金・補助事業の活用や放牧管理に係る労働負担や衛生費用負担について考慮した検討が必要	PR資料や農家指導時の情報提供
44	(H18-指-44)バンくず及びそばくずを利用した南部かしわ生産のコスト低減【担当:家畜育種<家畜育種>】	A	<u>C</u>	低コスト生産の情報提供とはなったが、バンくず・そばくずの安定供給先がなく技術が活用されない。	関係機関での知見の共有
45	(H18-指-45)正常卵率向上のための飼料給与プログラムと血液生化学指標値【担当:家畜育種<家畜工学>】	A	<u>C</u>	技術の効果の情報提供とはなったが、業務多忙な獣医師に飼料給与改善や採血等の負担増となることが課題。普及には連携体制の構築が必要。	関係機関での知見の共有
46	(H18-指-46)OVSYNCH変法による定時人工授精と胚移植技術【担当:外山畜産<外山畜産>】	B	B	受精卵移植技術者において活用されている。	関係機関での知見の共有
47	(H18-指-47)黒毛和種種雄牛別枝肉成績【担当:種山畜産<種山畜産>】	B	B	各地域別枝肉成績については現状分析に留まらず、より詳細な解析を行い問題点と提起しないと指導に活用出来ない。	地域の関係機関での情報共有と農家指導時の情報提供
48	(H18-指-48)黒毛和種の県有種雄牛における子牛市場成績【担当:種山畜産<種山畜産>】	B	B	各地域別子牛市場成績については現状分析に留まらず、より詳細な解析を行い問題点と提起しないと指導に活用出来ない。	地域の関係機関での情報共有と農家指導時の情報提供
49	(H18-指-49)細断型ロールペーラを活用した発酵TMR調製技術【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】	A	<u>C</u>	技術の情報提供は出来たが、発酵TMR活用技術を普及させる対象が、現状では、県内にない。	TMRセンター等への情報提供
50	(H18-指-50)効率的な発酵TMR調製のための細断型ロールペーラの操作方法【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】	A	<u>C</u>	技術の情報提供は出来たが、発酵TMR活用技術を普及させる対象が、現状では、県内にない。	関係機関での知見の共有
51	(H18-指-51)細断型ロールペーラを利用して調製した粗飼料主体発酵TMRの発酵品質および飼料特性【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】	A	<u>C</u>	技術の情報提供は出来たが、発酵TMR活用技術を普及させる対象が、現状では、県内にない。	TMRセンター等への情報提供

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
52	(H18-指-52)飼料用トウモロコシ栽培で牛排せつ物を利用する際の留意点【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】	A	A	トウモロコシの生産費低減のため、牛排せつ物利用による肥料代の節減が大規模飼料生産組織を中心に組み込まれており、施肥設計の参考として活用されている。	大規模飼料生産組織等への情報提供
53	(H18-指-53)経年草地における発酵鶏糞ペレットの化学肥料代替効果【担当:外山畜産<外山畜産>】	A	C	散布労力や、安定性に課題あり。コスト低減効果も不明なので、大規模な公共牧野では、化学肥料代替が進まない。	農家や大規模飼料生産組織等への情報提供
54	(H18-指-54)フラットベッドスキヤナを用いた簡易土壌分析システムの開発【担当:生産環境<土壌作物栄養>】	A	A	改良型のシステムとして市販化され、県内組織にも導入されるようになった	改良版のシステムとして市販化され導入されてきている
55	(H18-指-55)集落営農組織化効果試算シート【担当:農業経営<農業経営>】	B	B	集落営農組織化の効果を試算する資料作成に効果があった。	指導資料の作成
56	(H18-指-56)青果物の冷凍車による混載輸送の場合の冷氣とエチレンの影響【担当:生産環境<保鮮流通技術>】	-	-	農業普及員が流通業者に対して指導する場面がなかった。	
57	(H18-指-57)寒締めほうれんそうの作期判定と生育調節技術(追補:品種「朝霧」)【担当:園芸(県北)<産地育成>】	B	B	野菜栽培技術指針に当該研究成果の内容が盛り込まれており、現地指導の参考になっている。	指導会等での情報提供
58	(H19-指-01)スルホニルウレア系除草剤抵抗性イヌホタルイの防除に有効な成分を含む水稲除草剤の効果【担当:作物<水田作>】	A	A	SU抵抗性雑草に対する対策成分の特徴を明らかにし、技術指導の際に参考となった。特に、ベンゾピシクロンについてはその後多くの除草剤で活用された。現在、多年生雑草やヒエ、SU抵抗性アゼナも残草する圃場が多く、今後の成果に期待したい。	基本技術として定着
59	(H19-指-02)平成19年収穫直前の冠水被害による水稲玄米品質の特徴【担当:作物<水田作>】	A	A	気象災害に速やかに対応し、被害の発生についてその特徴を明らかにした点は大いに参考になった。将来への参考資料としても価値が高い。	水害発生時に大いに参考となった。
60	(H19-指-03)平成19年における水稲生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析【担当:作物<水田作>】	A	A	平成19年度の作柄について、反省・改善し、次年度への計画をたてていくうえで大いに参考になった。願わくば、過去のデータから将来におこるであろう問題を推測するような解析を行って欲しい。	次年度の栽培計画立案に活用。
61	(H19-指-04)トリコデルマ・アトロピリデ水和剤(商品名:エコホープD.J)の効果的な使用方法【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	B	特別栽培米の普及を進めるうえで大いに参考になった。研究としても評価できるものと思うが、普及場面から考えると対象病害によっては防除効果を低く評価し直すなど、成果として十分な検討が行われたと言えない。また、バカ苗に対する留意事項が不十分であるなど問題も多く見受けられる。	一部地域で普及
62	(H19-指-05)オリサストロビン粒剤のは種前床土混和およびは種時覆土前散布のいもち病に対する効果的な使用方法【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	B	普及面積は少ないが、現場のニーズに対応した播種前床土混和や播種時覆土前散布が可能な剤として、指導の参考になった。ストロビルリン系薬剤の連用に対する注意や食品衛生法への注意もなされていた点は地味であるが評価される。	一部地域で普及
63	(H19-指-06)ミノストロビン剤250グラムの省力散布による穂いもちに対する防除効果(追補)【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	B	次年度の大区画圃場での成果とあわせて評価、省力技術として参考になった。穂いもち防除は省略される傾向にあり、穂いもちによる減収、品質の低下が心配される。米価が安いのでコスト低減が要因の一つであり、課題解決のためには省力・低コスト技術が必要であり、今後の成果に期待したい。	一部地域で普及
64	(H19-指-07)岩手県におけるカスガイシン耐性もみ枯細菌病菌の発生【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	B	B	耐性菌の発生に対して迅速に対応した点は評価され、技術指導の参考になった。代替の薬剤防除技術はなく、対策は既存の耕種的防除の徹底のみであった。減農薬栽培が主流となっていたため、大きな混乱はなかったが、一部普及現場で混乱はあった。	県下全域で防除の参考となった
65	(H19-指-08)アカスジカスミカメ越冬世代幼虫の密度低減に効果的な草刈時期【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	カメムシ防除に関する耕種的防除方法の一つとして大いに参考になった。しかし、この時期の草刈りが実際の被害にどの程度影響しているかは不明であり、指導の効果としてよくわからない点が多い、今後の成果に期待したい。	県下全域に普及

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
66	(H19-指-09)大豆生育期の広葉雑草を対象とした除草剤の特徴【担当:作物<野菜畑作>】	A	A	大豆栽培における除草対策において、広葉対象の茎葉処理除草剤の選択の際役立った。	大豆栽培において参考になった事例がある。
67	(H19-指-10)平成19年における大豆の冠水等被害の実態【担当:作物<野菜畑作>】	A	B	大豆生育後期の冠水・浸水被害の実態が明らかになり、被害推定に役立った。	損害評価において参考になった事例がある。
68	(H19-指-11)白いんげんの安定栽培法【担当:園芸<野菜畑作>】	A	B	白いんげんの作付けを検討する際、参考となった。標高の高い種山では成果を参考に適期を模索した。	白いんげん栽培において参考になった事例がある。
69	(H19-指-12)アワノメイガの被害を考慮したアワの適正播種量及び作期【担当:作物(県北)<営農技術>】	B	B	アワ栽培において機械化体系における播種量の参考となり、作付け拡大に役立った。	雑穀栽培において参考になった事例がある。
70	(H19-指-13)早期培土を基本とした機械除草体系はキビにも適用できる【担当:作物(県北)<営農技術>】	A	A	登録農薬のないキビ栽培において、機械化体系による作付け拡大に役立った。	雑穀栽培において参考になった事例がある。
71	(H19-指-14)生物農薬「BT水和剤」を用いたアワノメイガ防除【担当:作物(県北)<営農技術>】	A	B	生物農薬BT剤によるアワノメイガの防除方法が明らかになり、雑穀の安定生産に役立った。無農薬栽培にこだわる産地では使用していない。	雑穀栽培において参考になった事例がある。
72	(H19-指-15)畑栽培雑穀(ヒエ・アワ・キビ)の発酵鶏ふんを利用した無化学肥料栽培【担当:作物(県北)<やませ利用>】	A	B	有機栽培が望まれる雑穀への有機質肥料での栽培法が提示され、栽培指導の参考になった。	雑穀栽培において一部定着
73	(H19-指-16)JM7台木利用りんご樹の衰弱症状における樹勢回復法【担当:園芸<果樹>】	B	B	JM7台木利用樹の衰弱症状については現地での発生が少なく、技術として利用する機会は少ない。しかし、衰弱症状を理解する上で、技術的な参考となった。	北上市内の発生園で盛土が行われている。
74	(H19-指-17)授粉専用品種の「ふじ」への高接ぎによる結実向上効果【担当:園芸<果樹>】	A	A	ドリフトの防止や作業の効率化のためりんご園の単植化は求められており、授粉専用品種に関する技術は参考となった。	指導会における情報提供
75	(H19-指-18)ブルーベリーの新病害「バルデンシア葉枯病」の発生【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	本成果により、耕種的防除が実施されており、当病害の発生は少ない。	指導会における情報提供
76	(H19-指-19)寒締めほうれんそうに含まれる成分と食味評価【担当:生産環境<保鮮流通技術>】	B	B	寒締めほうれんそう品質向上に留意した栽培管理について説明する際の、基礎資料として役立った。	指導会等での情報提供
77	(H19-指-20)差屈折計を用いた寒締めほうれんそうの品質評価【担当:生産環境<保鮮流通技術>】	A	A	現地で寒締めほうれんそう糖度調査を行う際、サンプリング法、糖度測定法の目安として役立った。	現地での簡易測定の実施
78	(H19-指-21)促成アスパラガス根株の養成年数に応じた最適な堀取り時期【担当:園芸<野菜畑作>】	A	A	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれており広く活用されている。	指導会等での情報提供
79	(H19-指-22)着果調整による雨よけトマトの秋期増収効果と盛夏期収穫作業の軽減【担当:南部園芸<南部園芸>】	A	A	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれており広く活用されているほか、各産地において秋期の収穫確保に向けた取組のきっかけとなった。	指導会等での情報提供
80	(H19-指-23)夜冷短日処理と窒素追肥によるいちご促成前進作型の年内収量向上技術【担当:南部園芸<南部園芸>】	B	B	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれ活用されている。	指導会等での情報提供
81	(H19-指-24)ピーマン及びトマト雨よけ普通栽培における化学肥料削減技術【担当:生産環境<土壌作物栄養>】	B	B	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれ活用されている。	指導会等での情報提供
82	(H19-指-25)キュウリホモブシ根腐病防除を目的としたクロルピクリンくん蒸剤(商品名:クロルピクリン錠剤)の畦立てマルチャーを用いた簡便な処理方法【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	本成果は効果の高い防除方法として、キュウリホモブシ根腐病対策に位置づけられ、現地で活用されている。	実証展示圃を活用した普及、指導会等での情報提供
83	(H19-指-26)TPI(Tissue Printing Immunoassay)法によるキュウリホモブシ根腐病の簡易診断【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	本成果は効率的な診断方法として、キュウリホモブシ根腐病対策に位置づけられ活用されている。	大量検体の迅速な診断

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
84	(H19-指-27)ビニール被覆処理によるほうれんそうのケナガコナダニ類の被害軽減技術【担当:園芸(県北)<産地育成>】	A	A	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれ活用されるとともに、現地での被害軽減効果も確認されている。	指導会等での情報提供
85	(H19-指-28)レタス腐敗性病害の耕種的防除法【担当:園芸(県北)<産地育成>】	B	B	野菜栽培技術指針に当該研究成果の内容が盛り込まれており、現地指導の参考になっている。	指導会等での情報提供
86	(H19-指-29)ビブルナムオプラス「スノーボール」の切り枝促成技術【担当:園芸<花き>】	B	C	切り枝栽培は一部で行われているが、切り枝を含む花き全般の価格低迷や燃料、資材等の高騰によりコスト高となる促成栽培は敬遠された。	指導会等での情報提供
87	(H19-指-30)固化培地育苗または直まきによるスターチスの高品質、多収生産技術【担当:南部園芸<南部園芸>】	B	C	品質向上等の技術改善は必要であるが、栽培面積の急激な減少に伴い、新たな技術の導入が進まなかった。	指導会等での情報提供
88	(H19-指-31)籾殻を利用したりんどコンテナ促成栽培用培地の軽量化【担当:生産環境<土壌作物栄養>】	C	C	一部でコンテナ栽培が行われているが、市販培土や自家配合した培土が使用されている。	特になし
89	(H19-指-32)施設花きに発生するインパチエンスネクロティックスポットウイルス(INSV)の発生源と重点防除時期【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	B	新病害であったことから不明点が多く、防除対策を講じるうえで参考となった。	発生調査、対策指導に活用
90	(H19-指-33)岩手県内に発生したインパチエンスネクロティックスポットウイルス(INSV)の分子系統解析に基づく伝搬経路の推定【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	B	B	新病害であったことから不明点が多く、防除対策を講じるうえで参考となった。	発生調査、対策指導に活用
91	(H19-指-34)リンドウのカンザワハダニに対する各種殺ダニ剤の残効性【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	B	病害虫防除指導において活用し、防除ごよみ作成等の参考とした。	防除指導の参考資料として活用
92	(H19-指-35)そばくずとオカラを混合したサイレージは豚の肥育飼料として有効である【担当:家畜育種<家畜育種>】	A	C	現在の養豚農家での給餌体系では活用ができない。	関係機関での知見の共有
93	(H19-指-36)南部かしわ(K系)の配合飼料給与時の発育モデル【担当:家畜育種<家畜育種>】	A	B	二戸地域での取組みにおいて、当該成果が活用されている。	関係機関での知見の共有
94	(H19-指-37)南部かしわに対するソバクズ+オカラサイレージの給与法【担当:家畜育種<家畜育種>】	A	C	ソバクズ、オカラサイレージの安価・安定入手が困難であるため普及しない。	関係機関での知見の共有
95	(H19-指-38)三陸地鶏の発育及び産肉成績【担当:家畜育種<家畜育種>】	-	-	三陸地鶏が生産中止となったため記載不可。	-
96	(H19-指-39)黒毛和種去勢育成牛へのTMR給与におけるサイレージの利用【担当:外山畜産<外山畜産>】	B	C	発育に関する情報のみの成果であり、TMR調整労力やコストについての検討がないので導入効果検討できない。	関係機関での知見の共有
97	(H19-指-40)過剰排卵処理方法の改善による正常胚数とAランク胚数の向上【担当:種山畜産<種山畜産>】	B	B	CIDERを用いた採卵技術の一般化が進み、当該研究成果が活用されている。	関係機関での知見の共有
98	(H19-指-41)黒毛和種子牛市場における育種価、産次表示と子牛、枝肉成績との関連【担当:種山畜産<種山畜産>】	B	B	育種価が子牛市場価格に反映されていることがわかった。産次の影響については、一般的な知見とズレがあるので指導活用難しい。	農家指導時の情報提供
99	(H19-指-42)汎用型飼料収穫機の飼料用トウモロコシ収穫における作業性能【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】	B	B	これまで県内では、汎用型飼料収穫機の導入事例はないが、これから志向をもつ組合等に対し、速やかに対応可能するための技術的な参考となった。	関係機関での知見の共有
100	(H19-指-43)飼料用トウモロコシ不耕起栽培の収量性【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】	B	B	県内では、不耕起播種機の導入事例はないが、これから志向をもつ組合等に対し、情報提供するための参考となった。ただし、普及においては、土壌条件による収量の変動についての検討必要。	関係機関での知見の共有
101	(H19-指-44)自給飼料主体発酵TMRの季節別の開封利用時期【担当:家畜飼養・飼料<飼料生	A	C	技術の情報提供は出来たが、発酵TMR活用技術を普及させる対象が、現状では、県内にない。	TMRセンター等組織への情報提供

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
102	(H19-指-45)ホーククロープサイレージ用稲の雑草ヒエ混入割合に対応した刈取許容範囲【担当:作物<水田作>】	B	B	ヒエ多発圃場における収穫時において、当該成果が参考として活用されている。	飼料稲栽培農家への情報提供
103	(H19-指-46)里地・里山生き物データベースシステム(公開版)【担当:プロジェクト(特栽有機)<環境保全>】	—	—	普及センターでは生き物調査への関与は低いものの農地水環境保全対策の取組に非常に参考なるものと思われ、農村整備関係へのPRをさらに行うべきと思われる。	農地水環境保全対策において参考になったと思われる
104	(H19-指-47)里地・里山の生き物紹介【担当:プロジェクト(特栽有機)<環境保全>】	—	—	普及センターでは生き物調査への関与は低いものの農地水環境保全対策の取組に非常に参考なるものと思われ、農村整備関係へのPRをさらに行うべきと思われる。	農地水環境保全対策において参考になったと思われる
105	(H19-指-48)水田・水路の生き物調査手引き(ver.1)【担当:プロジェクト(特栽有機)<環境保全>】	—	—	普及センターでは生き物調査への関与は低いものの農地水環境保全対策の取組に非常に参考なるものと思われ、農村整備関係へのPRをさらに行うべきと思われる。	農地水環境保全対策において参考になったと思われる
106	(H19-指-49)バイオガスプラント由来消化液の飼料作物及び耕種作物への利用効果【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】	A	B	プラント所有農場において、各作目の消化液を用いた施肥設計を当該成果を活用しながら、実施している。	プラント所有農場への情報提供
107	(H19-指-50)温湯消毒済み種子を循環式ハトムネ催芽器で催芽するとばか苗病の発生が多くなる【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	B	<u>C</u>	温湯消毒済み種子の取り扱いに対して注意を呼びかけた点では技術指導の参考になったが、当該成果は要因の一つと考えられる事に対応した課題解決を示しているのみである。温湯消毒済み種子におけるバカ苗発生にはそれ以外にもいくつかの要因があり、それらが解決されない限り問題は解決されないことの方が多い。	現場指導の参考となった
108	(H19-指-51)県内主要りんご産地におけるナミハダニの薬剤感受性実態【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	リンゴの主要害虫であるハダニ類に対する薬剤感受性は現地でも問題になっている。本成果はハダニ防除における薬剤選択の参考となっている。	各地域防除暦

※技術指導の参考になったか: A(大いに参考になった)、B(参考になった)、C(あまり参考にならなかった)、D(参考にならなかった)

指導効果(技術改善、技術水準の向上、指導効率の向上等): A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(まったくなかった)

3 東北農業試験研究成果

< 研究成果情報 >

(1) 研究成果数

推進部会名	作物	基盤技術	畜産	果樹	野菜花き	流通・加工	計
研究成果数	3	3	2	1	3	0	12

(2) 研究成果名

推進部会名	部会 No.	成 果 名	分 類	主査研究室
作物	30	転換畑小麦の湿害を軽減できる密条用小畦立て播種機の開発	技術・普及	プロジェクト推進室 (水田農業)
	29	極少量播種機構を備えたナタネの畦立て同時播種技術の開発	技術・普及	プロジェクト推進室 (水田農業)
	9	ロータリハローシーダーを用いた水稻の乾田直播栽培技術体系	技術・参考	プロジェクト推進室 (水田農業)
基盤技術	7	イムノクロマト法を用いたコムギ及びダイズのカドミウム濃度簡易測定法	技術・普及	生産環境
	38	生産工程管理のための農業経営ナビ・帳簿作成ツール	技術・普及	農業経営
	39	GAPナビゲーションシステムの導入効果	技術・参考	農業経営
果樹	3	JM7台木利用リンゴ樹の幼木～若木期における低樹高仕立て法	技術・普及	技術部・園芸
野菜花き	3	秋期の低温遭遇がアスパラガスの萌芽に及ぼす影響	技術・参考	技術部・園芸
	4	業務用ホウレンソウ初夏どり作型および秋どり作型の栽培法	技術・普及	県北・園芸
	30	晩生のリンドウ新品種「いわてLB-2号」の特性	技術・参考	技術部・園芸
畜産	3	トラクタ搭載型GPS作業支援システムで大規模草地での肥料散布作業精度が向上し作業時間は短縮できる	技術・参考	外山畜産
	4	黒毛和種肥育前期におけるトウモロコシサイレージ多給が産肉性に及ぼす影響	技術・参考	飼料・飼養